課題場面別におけるＩＣＴを活用した実践事例

|  |
| --- |
| 実践事例　平仮名や単語をスムーズに読むために、既成のアプリをどのように活用するか。 |

１　対象児童・生徒の実態

1. 基本情報

|  |
| --- |
| 小学校　第２学年　　障害種別（読み書き障害） |

1. 学習上又は生活上の困難

|  |
| --- |
| 〇平仮名、カタカナで似たような文字（「ね」「ぬ」など）を区別して読むことが難しい。〇読めない文字があるため、単語をまとまりで読むことが難しい。〇読むこと、読んで理解することが難しいため、学習意欲が下がりがちである。 |

1. 困難さの背景・要因

|  |
| --- |
| 〇仮名文字の一部分が似ていると、どの文字なのか迷ってしまう。文字のフォントが違うだけで、分からなくなったこともあった。（例えば、「さ」と「さ」のように）〇視機能の課題は、ないように思われる。 |

２　対象児童・生徒の指導目標及び指導目標を達成するために使用する教材

1. 指導目標

|  |
| --- |
| 〇自分が読みづらい平仮名を自覚し、各々の文字の特徴をつかんで区別しながら、平仮名を正しく読むことができる。〇２～４文字程度の単語（主に、清音）をスムーズに読むことができる。 |

1. 学習指導要領との関連

|  |
| --- |
| ２．心理的な安定（３）　障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること４．環境の把握（２）　感覚や認知の特性への対応に関すること |

1. 指導目標を達成するために使用する教材（ＩＣＴ教材等を含む）

|  |
| --- |
| ①平仮名五十音表　単語をまとまりで読む前提として、平仮名１文字それぞれを正確に区別して覚え、読めるようにすることが必須と考えた。そこで毎回の個別指導で、平仮名五十音を暗唱させる。その後、教師の指差した平仮名を読ませる。音と文字を確実に一致させるようにする。②例えば「ね」「ぬ」の文字を並べ、どこが違っているか書き込めるようにするワークシート　文字を見比べて、どの部分が区別しづらくなるか言わせる。また、区別するにはどの部分に着目するとよいのか言わせる。児童が言った、区別するポイントを教師がワークシートに書き込む。③区別した文字が含まれる単語（例えば「ねこ」「いぬ」のように）が、10単語程度書かれたワークシート②で区別した文字が含まれる単語を、まとまりで読む練習する。2文字～３文字の単語を示し、読む練習をする。④解読指導１（特別支援学級・通級用の学習用アプリ）：児童のタブレットにインストールされている。　最初に平仮名単語が示され、数秒後に挿絵が左側に示される。児童にとって読みづらい単語も、挿絵がヒントになり、読む手助けとなる。５分間で何問できていたか、最後に記録が出る。⑤幼児用の絵本　各ページ一行程度の文で、児童にとって読む負担が少ないもの |

３　ＩＣＴ教材等について

1. 課題場面

|  |
| --- |
| * 1. 読みに関する場面　（解読指導１を使って）
 |

1. 具体的な実践事例または想定される実践

|  |
| --- |
| 　平仮名を区別して読み、まとまりで読めるようになりつつあった時期（本児の場合は、指導開始から半年後の１月下旬）から、この教材を使い始めた。①アプリを使ってみる。　「単語が示された後、数秒後にヒントの絵が示される」ということを予告しておく。可能なら、絵が出る前に読めるとよい、と伝える。読んだら、自分で（タブレット上の）〇を押させるようにした。初回は、５分で100単語程度を読み、誤答は６つくらい。自分で〇を押させた・先に進めることに気を取られていたため、間違っているのに気が付かず、アプリの記録は全問正解となった。本児の感想は、「疲れた。」。これまでの単語のまとまり読み練習は、多くて２０問程度しか行っていなかったため、５分間で100単語はさすがに疲れたようだった。「絵が出る前に読む」と教師が指示したために、スピード重視にさせてしまったことが反省点である。②アプリに示される20単語まで、正しく読む。　５分は長過ぎるので、20単語までにしようと提案。本児が正しく読めていれば、教師が「〇」と言う。そして本児が〇を押す、というやり方に変更。挿絵が出る前に読もうとしていた。誤答は、「すみれ」のみ。この日に行った別の読み練習でも、「す」は読みづらい様子が伺えた。その他の単語は、スムーズに読むことができた。③時間をおいて、20単語ずつ読む。　やり方や単語が示されるペースに慣れてきた。単語がランダムに示されるため、読みづらい文字や単語を教師がチェックしやすい。読みづらい文字や単語を重点的に確認する、読む練習をすることに役立てることができた。児童にとっては、示される単語を挿絵が出る前に読もうとするようになり、拾い読みではなく、まとまりで読もうとする意欲へとつながった。実践してみてこのアプリを使用するためには、ある程度、平仮名を区別して読めるようにしておく必要がある。アプリを使うことが先、ではなく、スムーズな読みの練習のためのツールとして使用したことに意義があったと考える。 |